

令和元年度 小城市立小城中学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
自他を大切にし、社会に貢献できる生徒の育成	1 生徒が「小城中に行ってよかった(充実した学校生活・進路保障・卒業式への全員参加)」、保護者が「小城中にやってよかった(高校卒業・就職)」、教職員が「小城中に勤めてよかった(サービスの規律保持・健康増進・資質向上)」と感じる教育活動を組織的に実践する。 2 教科をこえたテーマで校内研を充実させ、学ぶことが楽しくなる授業づくり、学級経営を実践し、学力向上を目指す。 3 人権・同和教育をさらに充実させ、自他を尊重し、郷土に誇りを持ち、社会に貢献する心を育成する。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

**① 学ぶことが楽しくなる授業づくりを実践し、学力向上を目指す**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●学力の向上	・本校生徒の実態を踏まえた指導方法の確立による学力向上	・調査において「授業がわかる」という生徒を80%以上にする。 ・4月及び12月の学習状況調査において経年比較をし、前年度の結果を上回る。	・黙想-立腰-礼から始まる規律ある授業づくりを行う。 ・本時のめあてと授業の流れの明確化により見通しを持った授業を展開し、授業の振り返りによって学びの定着を図る。 ・授業に応じた主体的学びの場を設定する。	学習部	伊東
		・きめ細かな指導による学力向上	・1年生において平日の家庭学習2時間以上の生徒を60%以上にする。 ・12月調査及び実力テストにおいて、TTおよび少人数授業実施の学年・教科の成績を経年比較し、前年度より向上させる。	・小規模学級を編制し、基本的学習習慣を確立させる。 ・単元や内容の特性を生かしてTT及び少人数授業をそれぞれ実践する。 ・課題提示の工夫を行うとともに、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。	学習部	伊東
	●志を高める教育	・キャリア教育の推進 ・進路指導体制の整備	・将来の目標を見据え、そこに到達するための進路を考える意識を持たせるために、中学3年間を通じての一貫した進路指導を計画する。 ・卒業時の第1志望達成率90%以上を目指す。	・自己を見据え、自己の特性・適正を考え、それに応じた将来の具体的な目標を考えさせる。実現に向けて努力する意欲を持たせるために、1年時より生徒の発達段階に応じた進路学習を行う。 ・学力向上との連携により、進路実現のために必要な意欲と学力の定着を図る。 ・将来を考えるために必要な情報を、具体的にわかりやすく提示する。	進路／特活	大庭

**② 自他を尊重し、郷土を愛し、社会に貢献する心を育成する**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	・人権・同和教育の充実	・教科担任と学級担任、副担任等が連携して差別や人権に関する授業を年間に2回以上は行う。 ・各教職員が1回以上は研修会に参加する。	・社会科で差別や人権に関する内容の授業がある場合は事前に学年で検討会を設け、教科担当と学級担任、副担任等が連携した計画的な授業を行う。 ・教師自身の人権感覚を磨くために校外の研修への参加を推進する。その際、他の出張や行事とのバランスを考慮し、全職員が参加可能となるように配慮する。	人権・同和教育	香月中尾
		・道徳教育の充実	・生徒アンケートで、「自分にはいいところがある」と回答する生徒の割合を70%以上にする。	・道徳の授業の時間確保と教材の共有化を図る。 ・「わたしたち道徳」をはじめ読み物資料や視聴覚教材などを利用して、計画的に道徳の授業の実践を行う。 ・主体的・対話的な学びを通して、自己肯定感が高まる授業の実践を行う。	道徳教育	大坪大庭
		・郷土愛の育成と地域貢献の推進	・地域行事への参加生徒を80%以上にする。	・生徒会活動を中心に家庭・地域と連携してボランティア活動を活性化させる。 ・地域教材を利用した教科や総合的な学習の時間の充実を図る。	生徒会	山口
	●いじめ問題への対応	・いじめの未然防止・早期発見・早期対応	・アンケートの充実(月1回)と教職員と保護者の連携で、いじめを未然に防止する。 ・SNSの正しい利用方法やスマートフォン等使用上の約束事について生徒・保護者に周知する。 ・講話の実施	・道徳や学級活動、全校集会や生徒集会などあらゆる機会を利用して、いじめの未然防止についての啓発を行う。 ・計画的に教育相談やいじめ・体罰アンケートを実施し、結果については関係職員で情報共有を図り、連携して組織的に取り組む。 ・育友会や生徒会と連携してスマホに関する協議を行い、SNSの正しい利用方法やスマートフォン等使用上の約束事について、家庭訪問や土曜授業を活用して全家庭に周知させる。 ・講師を招聘し、いじめの未然防止を啓発する。	生徒指導／教育相談	手塚／古賀
	○教育相談・生徒支援体制	・不登校対策の充実	・不登校生徒数を前年度より20%以上下回る。 ・不登校生徒・保護者対象の進路説明会や情報交換会を学期に1回以上開催する。 ・個別の教育相談の方法の改善と教職員のスキルの向上を図る。	・教育相談週間の充実を図り、不登校未然防止のために、生徒が相談しやすい体制を構築するとともに小中連携のあり方を工夫する。 ・SC, SSW, 市家庭教育相談員、児童相談所など関係者による情報交換会を定期的に開催し、具体的手立てを検討する。 ・SCや外部関係者を講師に招き、職員研修を実施する。	教育相談	古賀
		・特別支援教育に対する理解を深め、生徒の支援につなげた教職員の割合を80%以上にする。 ・通常学級の中にある配慮や支援を必要とする生徒への支援をする。 ・特別支援学級に在籍する生徒の特性に応じた適切な指導を行うことで、個々の生徒の進路実現を目指す。	・特別支援教育に関する職員研修会を開催する。 ・専門家を交えた巡回相談や支援会議などを適宜実施し、指導・支援に関する共通理解を図る。 ・通常学級の中にある配慮や支援を必要とする生徒の状況把握と生徒との面談などを行いサポート体制を整える。 ・特別支援学級担任の連絡会を毎週1回開催する。(時間割に組み込みたい)	特別支援教育	原野中	

**③ 教職員の健康増進、資質・能力の向上を図る**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・メンタルヘルス不調の予防	・職員アンケートで、多忙を感じた割合を30%以内にする。 ・長期休業中の時間外勤務月30時間を超える職員を0%にする。	・第3日曜日の部活動は例外なく休養日とする。 ・月曜日の部活動は原則休養日とし、定時退勤を促す。 ・人間ドックなどの再検査を必ず受診させる。 ・定期テストや始業式・終業式の午後には会議を入れずに年休取得推進日とする。	教頭	澁谷
	○教職員の資質向上	・校内研究の充実 ・研修会や研究会への参加推進	・道徳アンケートで「自分にはいいところがある」と思う生徒を70%以上にする。 ・全職員が1回以上は教育センター講座や県・九州研究大会に参加する。	・校内研において講師招聘や授業研究会を行うとともに、全職員で道徳の授業を実施する。 ・生徒を認め励まし、成長への意欲を高める授業の工夫と評価の研究を行う。 ・教科部会の時間を確保し、教科で共通した取組を推進する。	校内研究推進／学習	大庭／伊東

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	・基礎体力の向上 ・食育の推進	・新体力テストで県平均を5種目以上上回る。 ・朝食の喫食率を85%以上とする。	・授業における補強運動を徹底させ体力の向上を図る。 ・放送・給食指導・便り・食育授業を通して、朝食の大切さについて理解させる。 ・外部関係機関や育友会と連携して、朝食に関する取組を実施する。	保健・健康／食育	川原／草野